3月13日 民生経済常任委員会 会議録

- 日時・場所 令和7年3月13日(木) 午前9時02分～午前11時27分 第1委員会室
- 出席議員 井川敦雄、津川俊仁、秋山 修、油本朋也、町田貴子、前田栄治
阪本和俊
- 欠席議員 なし
- 他の出席を
求めた議員 議長 野田秀樹
- 執行部職員等 杉本環境エネルギー課長、清水産業振興課長、永田観光交流課長
中原地域整備課長、中原農業委員会事務局長
- 議会事務局 手嶋局長、福嶋主幹

〈会議に付した案件及び経過と結果〉

1 開会 (9:02)

○津川副委員長

皆さん、おはようございます。時間になりましたので、民生経済常任委員会を開会いたします。

まず、委員長、挨拶をお願いします。

2 委員長あいさつ

○井川委員長

皆さん、おはようございます。

ようやく春めいた格好になりまして、何か今日はもう早くも黄砂が飛んでくるようなうわさも、話もございます。花粉症とか十分注意をしていただきたいと思いますのでということで、早速入らせていただきます。

3 審査事項

(1) 所管事項調査について

○井川委員長

ただいまの出席委員数は7人でございます。定足数に達しております。

本日の日程につきましては、お手元の日程のとおりでございますので、よろしく願いをいたします。

そういたしますと、初めに、審査事項、所管事項調査を行います。

まず、委員の方より事前通告のありました事案につきまして調査を行います。なお、委員の皆様におかれましては、簡潔な質問とマイクのスイッチの切替え、そしてまた、執行部のほうは簡潔な答弁でお願いをいたします。

初めに、まず、環境エネルギー課について行います。これは油本委員のほうから出ておりますので、油本委員、お願いいたします。

○油本委員

おはようございます。課長におかれましては突然、すみませんでした、申込み(期限を)過ぎておきながら。私は、課長に対しまして、前回(令和7年3月10日)の行政報告会に出されました追加の資料(「JR東日本エネルギー開発㈱による風車新設の中止について」)に関しまして質問させていただきます。

まず、この文面にありますように、JEDからの申出、これが出されたのが2月の26日水曜日でした、町長宛てに。それを受けられまして、その報告を議会に対してされたのが3月の10日月曜日でした。しかも本冊でなく別冊で、当日アップでした。事前

ではありませんでした。議員はもちろんのこと、周辺住民の方、関係される方、このJEDの進出の計画には、かなり大きな関心を寄せられたと思うんですよ。そのことはもちろん担当課も認識していらっしやったと思うんですが、その情報を2月の26日に把握していながら、なぜ3月の10日まで発表されなかったか、その遅れた理由をまず伺います。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

予定外にお声がけいただいて、ちょっとびっくりしましたが、ちゃんと準備してきたつもりなので、よろしく願います。

まず、今の御質問につきましては、2月26日に町長のところにJEDの社長がおいでになり、報告をされました。そこで話がありました中で一番大事にされたのが、まず、このJEDが北栄町に入ってくるというお話をされて、最初に説明したのが議会だった。なので、議会を一番最初に御報告の場、議会への報告を一番にしたいということ、それから、議会に当然報告をした後で関係する皆様、今までお話をいろいろ協議、相談してこられた方々には説明するという確認がされた、その場でそういう話があったということで、今の状況になっております。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

議会ですらまず相談するのが一番、その後で住民さんにといいことですが、それは今の答えになってないと思うんですよ。私が聞いたのは、2月の26日に情報を把握していながら、なぜ3月の10日まで12日間もそれをされなかったか、その理由を伺ってます。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

なので、先ほど答えになってないっていうのがちょっと理解しにくいんですけど、まず、JEDからも町長も、両方が話した内容になります。このJEDが北栄町に入ってきたときに、計画を進めたいという話があったときに、まず議会への報告から、覚えていらっしやるかどうか分かりませんが、多分春だったと、4月の末だったと思えますけど、大栄農村環境改善センターで。行政報告でこういう計画があるということをお話ししましたら、ぜひ議会のほうから話を聞きたいということがあって、JEDが、じゃあ、まず議会に御説明をさせていただいてから、地域に入るのは(その後)始めたいということがありました。改善センターの大会議室だったと思えますけど、そういう会を設けられて、そこからスタートしてる話だということで、今回も中止ということを決断するのに、議会への報告をまずしてからという、そういう意味でだったと、それが理由だということでお話ししました。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

どうも私の質問の意図を理解していただいてないんで、はっきり聞きますね。議員に周知した後で、今までにそういった方に説明とか報告をしたいのであれば、情報入手後、直ちに議会に報告するべきじゃなかったかと思うんですよ。いわゆるほかの手段、別に行政報告会でなくともLINE WORKSなりなんなりで、興味を非常に抱いている住民さんはもとより、その前に議会に報告するのが、それが順序だとおっしゃるんです。別に3月10日の行政報告会のタイミングを待つ必要はなかったのではないかと

私は思ってるんですよ。その3月10日を、その公開を行政報告会の場でしなさい、そういうことをおっしゃったのは町長なんですかね。それとも、それを受けられて、その命を受けて、事前では、もっと前ではなく、行政報告会のタイミングで公開された、それはちょっと長過ぎるんじゃないかと、そういうことは思われませんでしたか、伺います。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

この計画は8年間をかけて、今、稼働するまでには8年間の状況があるので、今、環境影響評価の、まだ建てるということも、建てたいという計画はありますけど、建てるという状況にもなっているわけではありません。環境影響評価法に基づいた環境アセスメントの方法書、すみません、ちょっとうろ覚えなんで、方法書の段階で手続を進めているところで、そういう状況の中で、この2週間の間に何か突然のことがあるということは、そうですね、急な変化が起きるということはない中で、今まで取組をそれぞれJEDさんが関係者には御説明してます。

○井川委員長

だけん、油本委員が言われるのは、2月10日に報告書をもらっとって、どうして……（「2月26」と呼ぶ者あり）ああ、26日にもらっとって、どうして3月10日にしたのですかと、すぐにできなかったのかっていうことを聞かれとるんですよ。

○杉本環境エネルギー課長

なので、JEDと町長が話し合っ、どちらが言ったかというより、その話の中で決まったことというふうに記憶しております。

○井川委員長

では、町長とJEDさんの話で、じゃあ、3月10日にしようっていうことで決まったと。

○杉本環境エネルギー課長

議会にまず、何度も言ってますけど、議会に最初に御説明したことを議会に報告してから説明に入りたいということがあったということです。

○井川委員長

だから、2月の16日に会って……（「26」と呼ぶ者あり）あ、26、ごめんなさい。どうして3月10日になったんですかっていうことですよ。

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

行政報告会を予定されていたからです。

○井川委員長

だから、行政報告会に合わせてするということがその場で決まったと。

○野田議長

ちょっといいですか。

○井川委員長

議長、はい。

○野田議長

要は26日にそういった報告が作られたのに10日まで待ったかということは、それは私もちょっと相談がありまして、わざわざ、例えばこういったことを計画して、建設のほうだったら直ちに集まってもらわないけんだけど、この動きがない中でやめるということだから、行政報告会でいいんじゃないですかっていうことで、私は言いました。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

改めて伺います。課長にとって、もちろん答えにくいといいますが、秘匿しなければならないことが含まれるかもしれませんので、それは別に不利になるようでしたらお答えにならなくても結構ですんで、伺います。

まず、課長はそのJEDさんからの建設中止の情報をまず町長に言ったわけですが、課長自身がそれを知られたのはこれ、いつですか。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

2月26日です。

○油本委員

当日ですか。

○杉本環境エネルギー課長

はい。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

議会事務局にそれを報告されたのはいつですか。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

ごめんなさい、ちゃんと記憶してません。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

ちゃんとじゃなくても結構です。3月10日のぎりぎり前だったのか、かなり余裕を持って前だとか、それでもいいです。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

3月の上旬、たしか。ごめんなさい、土日が入るので、ちょっとよく覚えてませんけど、大体、行政報告の締切りが3月の、その月の初めになるので、その辺りでは話をしたという記憶がありますけども。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

じゃ、3月の上旬ということにしときます。それ議長に報告されたのはいつですか。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

3月の第1週だと思います。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

私がまず申し上げたいのが、その情報を皆さんつかんでいながら、執行部の人がかつかんでいながら、私は、3月の5日水曜日ですよ、水曜日の一般質問当日に、風力発電に

関してJEDの建設の中止を知らずにしてるんですよ、一般質問を。もしその情報を既に私が入手していたならば、それを前提にした追加質問、それに替わってたんですよ、内容が。ということは、町長から得られる回答、それも変わってきた可能性が非常に残るわけなんです。それができなかったのが私は非常に残念なんです。だから、これを申し上げてる。とにかく議会及びその関心を持ってる周辺住民の人たちに早く知らせたい、取りあえず、議会に最初にそれを伝えたもんだから、議会に最初に伝えるべきだって、その理屈はもちろん分かりますよ。ただ、それを行政報告会のタイミング、そこまで待たれる、その間に私の一般質問が入った、それに対して私はちょっと不愉快な思いをしてるんです。それに対してコメントがあれば。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

民間事業者がやっていることで、北栄町がこのことを直接関わってやってる話ではありませんので、民間事業者の御判断に基づくものということで御理解いただければと思います。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

民間事業者の判断は、いついつに議会に報告してくれということじゃなくって、やめるということを報告した、それが民間事業者、そこまでのレベルなんですよね。ですから、これ以上、あなたと話し合ってもらちが明きませんので、この質問はここまでにしておきます。今後こういうことがありましたら、私からのお願いですが、たとえそういう事情があろうと、条件の許す限り、行政報告のタイミングを待たないでLINE WORKSなんか、たくさん伝達ツールはありますので、ちょっと重要度、それがかなり高いものと判断されるようだったら、議会事務局も含めまして、そういうふうな手段に訴えていただきたい、それをお願いしておきます。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

当然、今の話も含めて、議会に対して一番大事にしくなくちゃいけないことはしっかりしてきているということで、町としては取り組んでいかななくちゃいけないというふうには思ってます。そういう中でも、民間事業者自体が御判断されることもありますので、こういった秘密の情報の開示というのは民間事業者の判断がされるべきものもありますので、そういうことについては、町のほうも努力はさせていただきますが、町の思いどおりにならない部分もあるということは御理解いただければと思います。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

この件に関しましてはここまでにしますが、たまたまですかね、私その間に一般質問を風力に関してした。JEDさんが参入の可能性を残したままで、それをした。ですから、撤去もしくは譲渡に関する質問が中心になりましたけども、JEDさんが入る、入らないで、いわゆる執行部の、撤去もしくは譲渡に関する考え方のバイアスも変わってきたと思うんですよ。ですから、そういう情報はなるべく早く出してほしかったということを訴えて、これは終わります。

次に、その審査会が次に行われますね。その答弁に関して質問したい。2月末に提出した、これ一般質問のときに確認しました。その最終提案を基に開催されます審査会の

詳細ですかね。それに関してでございますが、町長は、そのときに、そのメンバーに町職員を入れるか入れないか、公開か非公開か、そういうことをまたちょっと検討したい。初めは否定されてました。入れるかもしれないとか非公開にするとか、言われておりましたけども、質問を重ねるにつれて、それはちょっと検討したいとおっしゃっておられました。含めまして、審査の日をいつにするのか、そういうことは発表される。つまり、もう一回言いますよ、メンバーに町職員を入れられるのか、公開するのকাশないのか、審査の開催日はいつなのか、そういうことは発表される予定ですか。それとも全て発表しないで秘密裏に行って、町長の最終判断も含めて、例えばそれを、その後の行政報告会のタイミングまで一切秘匿されるのか、伺います。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

一般質問で町長が答えたように、今しっかり検討してるところでありますので、そういうことが御報告できるようになったら御報告をさせていただきたいと思っています。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

確認します。でしたら、確認したら報告するとおっしゃいましたのは、公開するのকাশないかを判断したら発表する、非公開なら非公開にします、公開なら公開にします、公開にする場合はメンバーはどうするか、それと開催日はどうするか、公開、非公開、そういうもの全て発表される、そういう意味でよろしいですね。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

ああ、ごめんなさい。一般質問の内容を、今、答弁のやり取りの内容を確認してますが、基本的には審査会自体は、慎重に専門家に相談しながら、助言を受けながら進めているということで、基本的に進めているので、そういうことが今おっしゃったようなことを全部確認した上で、それぞれをどうするのかも含めて判断をした上で、公表できるものは公表していくということだと思っています。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

最後にしようと思ってたけど、公表できるのはしていく、すなわち軽く考えていただいていたんですよ。ですから、その公表の内容ですけども、審査会は公表、公開か非公開か、もしくは何月何日に開催しますよとか、そのメンバーに町職員が入りますよ、入りませんよ、そういうことを公開されるんですかというふうに伺ってます。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

審査会については公表しないということで、町長は答弁したと思います。そのことは、そういうことが基本になって検討しているということだと思えますし、あとのことはまだその場では何も言ってないと思いますが、今、検討中です。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

もう回答は結構ですけども、私も何度もユーチューブで拝見させていただきました。

初めの答弁時は非公開だとおっしゃった。ところが、途中から専門家の意見を聞いて判断したいとおっしゃってましたので、そういうふうには私は考えました。ですから、可能な限り公開に踏み切っていただきたいと私は考えて、質問はここまでにします。じゃあ、最後、例えば非公開だった場合に、その審査会の会議録、それは公開されますよね、確認します。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

町長も申してたと思いますが、個人情報に係る内容等についてはやはり公表できない部分もあると。民間事業者が行う事業等に支障が出るようなことは情報公開条例上制限のあることもありますので、そういうことはしっかり確認しながら、あと、審査員の方々の御質問等もそういうことに係るような内容であれば、情報公開条例に基づいて公表できること、できないこと等々ありますので、そういうことは十分勘案しながら公表はしていかなくちやいけないというふうに思います。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

確かに今おっしゃいますように、民間事業者の仕事の進め方、運営の仕方に関して支障が出ること、もしくは審査員の発言で誤解を招いてはいけないことがあるために、非公開にするというふうにおっしゃってましたけども、例えば公開していただけるのであれば、そこを例えば黒塗りにしてでも私は会議録を公開していただきたい、そう思っております。これは訴えておきたいと思います。

じゃあ、最後に。住民説明会がありました。今、エナテクスさんと担当課による住民説明会、その当該自治会のね、されてますけども、そういった分の会議録というのは、これは公開されますか。伺います。

○井川委員長

杉本課長。

○杉本環境エネルギー課長

今回、エナテクスが主催している会議に私どもが参加しているという形でありますので、いずれにしても、これも民間事業者さんが取り組まれていることが中心になってますので、やはりそこは慎重に対応していかなくちやいけないことだというふうに考えています。

○井川委員長

この件について、皆さん、では、いいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○井川委員長

では、環境エネルギー課は以上で終わります。御苦労さまでした。

(9:24)【杉本環境エネルギー課長 退室】

○井川委員長

続きまして、地域整備課の関係で山陰道の件につきまして、これは前田委員より出ておりますので、前田委員、お願いいたします。

○前田委員

この前もちょっと課長にもお話ししたんですけども、町長の答弁で、ジャンクションが米子市側に向くジャンクション、またさらに米子市側から倉吉市内に入るジャンクシ

ョンは、前は遅れるからということだったんですけど、それをもうジャンクション自体は完成して、下ろすところが松神の辺に下ろすような答弁があったんですけども、それも含めて、どこら辺に下ろすのか、また、どういう造りというか、どういう下ろし方、また、既存の道路とのところに信号とかをつけないといけなくなるのかとかね、その辺のちょっと詳しいところをもう一度。前回もちょっとお聞きしたんですけど、今回もちょっとお聞きしたいと思います。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

お答えします。山陰道北条道路につきましては、令和8年度の供用開始が延びるところで、それに伴いまして、国道313号との結節点の辺りがどうなるかというところは以前の議会で少し説明をさせていただきましたが、改めて説明しますと、まず、ジャンクションにつきましては、使えるような形になります。ですから、山陰道からジャンクションを使って北条道路を通ることもできますし、北条道路側、ただ、これは供用が開始される東側、湯梨浜町のほうからになりますけれども、湯梨浜町のほうから313号線のほうにつながるような形でジャンクションは利用ができる形になります。ちょっと今、図面を出したいと思います。(モニターに図面を示しながら説明)

実はこれ標識をどこに設置するかというようなところで作られた図面になります。これ今のジャンクションの形状とか、あとオンランプ、ランプも形がよく分かりますので、これを見ていただきながらお話聞いていただければと思います。ジャンクションの中心、こちらがジャンクションになります。この緑の部分が北条道路になります。これが313号線という形になります。ここがジャンクションです。赤い線は何かといいますと、現在の国道9号です。以前も御報告をさせていただきましたが、国道9号は、北条道路の整備に伴いまして、この区間についてはセパレートといいまして、上り車線が北側、下り車線が南側を走るような形状になります。これにランプを使いまして北条道路と接続するような形になります。令和8年時点では、この東側の部分、南側の部分は通行が可能となります。

では、今、前田委員がおっしゃるような西側へ向かう場合、西側から来る場合はどういう形になるかです。この図面には記載をされてませんが、仮に南側からジャンクションを使って西側に行く場合は、ここを通りまして、この接続を通りまして、ここまで来ますと、ここには将来的には北条道路に乗るランプがあったり、北条道路から下りるランプがあったりするんですけども、ここはまだできてない、通行はできませんけれども、ここをやり過ぎたところ、後でまた現道の9号のほうに接続するような道路が造られて、ここを止まらずに西側に行ける、反対に西側から来た車はここから北条道路に乗れるような形で計画をされてます。これは西側のほうの供用がまだ延期になってる部分が完成するまでの、そういった形でつながる予定となっております。じゃあ、それバスが通れるぐらいになるかということですので、このオフランプ、オンランプの西側という形になりますので、まだ場所ははっきりと言えないそうです。松神ぐらいだろうというふうには想定をしていますが、まだ図面とかもできてない段階ですので、少なくともランプよりは西側の位置でそういった接続が行われるというようなところで、今聞いてるところでございます。簡単ですけど、以上です。

○井川委員長

前田委員。

○前田委員

ならその接続地点には信号はつかなくて、もうすつと行けるということですね。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

特に信号がつくというような話は聞いておりません。

○井川委員長

前田委員。

○前田委員

非常に、私、今までジャンクション自体が鳥取側しか使えないと思ってたものですが、鳥取側、また、鳥取側から来た倉吉しか使えないと思ってて、住民さんにも結構、米子側に行くのは1回下りないといけんだでみたいなことを言ってきちゃったもんですから、ちょっと改めて、今度聞かれたら説明できるようになるので、ありがとうございます。お聞きしてよかったです。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

北条道路のほうは国のほうが整備をしておりますし、国道313号のほうについては県のほうが整備しておりますので、ちょっとその情報が統一されて出されてなかった部分がありまして、誤解で伝わってしまった面があるかと思えますけども、今説明したとおりで聞いておりますので、また必要に応じてといったところは広報を進めていきたいと思えます。以上でございます。

○前田委員

分かりました。

○井川委員長

ありがとうございます。なら、山陰道の件につきましては以上で終わらせていただきます。

そういたしますと、続きまして、本日の協議事項にもなっております、六尾自治会への出前座談会のフィードバックということで、本委員会において調査事項となっております、放置された農業用ビニールハウスの撤去費の助成について検討していただきたい。そしてまた、コナン通りの歩道除雪は早くできないか、おもてなしの心を持ってやっていただきたいということにつきまして、協議事項に入ります前に、それぞれ担当課のほうに聞き取りを行いというふうに思っております。

ということで、まず、放置された農業用ビニールハウスの撤去費の助成についてということで、産業振興課、農業委員会のほうから行いますけども、委員の皆さんのほうで聞いてみたいこと、確認しておきたいこと等あればお願いをしたいと思えますので、委員さんのほうで何かありましたらお願いをいたします。

前田委員。

○前田委員

過去10年も20年も前から言われとるんですけども、北条砂丘地にも補助金を受けてブドウのビニールハウスをたくさん建ててました。それで、それをやっぱりなかなか担い手がいないとか、そういうことで撤去したいっていうときに、補助金受けてるので、やめることもなかなかできんし、結局、補助金を受けて撤去することはできませんよと。補助金を受けるんだったら何か別の作物に転換をするなりなんなりをしないと、補助金を受けて撤去なり半分撤去して半分使うとか、そういうことはできないよっていうことはずっと聞いてきたことがあるんです。それも含めて、でも、いつまでもそんな、できないできないって言っとったら放置されとるハウスばかりになっちゃうので。放置されとるハウスばかりになっちゃうって言ったら怒られる。放置されとるハウスがどんどん増えていっちゃうっていうことになるので、ここに書いておられるように、その辺

の今後の補助制度の在り方も含めて何かっていうのをちょっとお聞きしたいなと思ってるんですけどね。今まではそういう補助金ないですよっていうことをずっと言われてきとったという。

○井川委員長

清水課長。

○清水産業振興課長

お答えします。確かにこれまでなかなか生産振興に伴う撤去、次の計画があるものについては制度があったんですけども、これまでもなかったですし、これからもやっぱり農業振興っていうことを考えた場合には、次の新たな生産ということがないと、なかなか撤去だけでは難しいということがあります。そんな中で、まだ県のほうも予算審議中なんですけども、新たなメニューとしまして、これまでの園芸産地活力増進事業ということで園芸品目の応援をする事業があって、我々も、北栄町も使わせてもらったんですけども、その中のメニューで、令和7年度に新たな園芸産地活力増進事業、名前変わしまして、主要園芸品目生産振興事業ということで今検討されとるんですけども、その中のメニューに、園芸品目の中でも特に重要品目ということを決めた上で、白ネギ、ブロッコリー、ラッキョウということがあるんですけども、こちらの生産について、計画を立てられたものについて認められたものがハウスの撤去も含めて支援するというもので、今、予算が上げられとるという状況であります。

また、これが可決ということになりましたら、その辺の情報も含めて、その要望があった場合には相談等、応じていきたいというふうに思っておりますし、ハウスの撤去について支援のある場合としまして、もう一つありまして、国のほうも新規就農の応援をする次世代就農の経営開始資金のほうで、新たな担い手が就農するに当たって、農地を確保するに当たって、既存の場所にハウスがあって、そのハウスを撤去して新たな品目を作るというようなことがあれば、これも令和7年度の新たなメニューでございまして、ハウスの撤去を伴った新たな生産振興ということで支援対象になるという情報が入っておりますので、またここも含めながら対応をしていきたいと思っております。なお、この新たな担い手の部分につきましては、1件相談をもう受けとるところです。以上です。

○井川委員長

前田委員。

○前田委員

ありがとうございます。ずっと言われてきたと思いますし、とにかく撤去だけじゃできんというのは、国や県の補助金を使えば撤去だけだったら駄目だよということですけど、これは一時期、鉄の値段が高いときに、ハウスの鉄を処分するのに鉄くず代として、プラス当然自腹がありますけど、だけど、町単独でね、やっぱりいろいろ精査したり、誰でも彼でも出したらいけんとは思いますが、町単独でちょっとはそういう補助金制度みたいなものをつくろうかみたいなのは全然考える気もないですか。

○井川委員長

清水課長。

○清水産業振興課長

農業振興という上で、いろんな生産者の声を聞きながら、必要な制度というのをつかっていかないけんというふうには思っております。けども、有効に財源を獲得していくためには、まずは国ないし、今説明させていただきました県ないしの制度を有効に使わせてもらって、皆さんの相談に応じていきたいということを考えております。以上です。

○井川委員長

そのほか、いいですか。

津川委員。

○津川委員

直接、この要望の答えとしてされたのかどうか分かんないんで、お聞きしたいのは、六尾の地内、実は農業委員さんと遊休農地の調査で、町田委員さんと担当の方と3人で回って、南場農業委員さんが案内してくれました。1か所ハウス、以前から私の通勤道路沿いにハウスが草ぼうぼうになって荒れとったです。ここはどなたの土地ですかみたいな話をした経過があって、この前、冬、年明けてからだと思うんですけど、正月明けにハウス撤去されまして、今はきれいにされて、中の草木も切って、根っこを引っ張り出して、六尾の方が整理をされとります。この事業、何か事業でやられたんでしょうか。

○井川委員長

中原農業委員会事務局長。

○中原農業委員会事務局長

今の六尾の部分については、県の事業を活用して担い手育成機構に貸すことによって、次のハウスだったり、樹木が生えてくるのを撤去して、新たな方が耕作されるものを支援するという事業があります。事業費200万円まででできるものについては、県が半分、市町村が半分出して事業を実施して、次の生産を行うというものがあります。また、200万円を超えるような大きなものについては、これ、ちょっと事業は産業振興課のほうの事業にはなるんですが、圃場整備の事業を活用して実施するようなことはできます。ただ、先ほども清水課長が話をしたとおりに、次の生産者が決まって、こういったものをやっていくんだということがあるということがちょっと前提でありますので、そういったところが使いにくいというふうに言われているんじゃないかなというふうには感じていますが、やはり先ほど清水課長からもあったとおりに、全てのことをきれいにできてっていうところはいいんですけども、費用の面もありますので、まずは生産者さんが、いや、ここをやっていくんだっていうところを重点的にこういった事業を活用してやるべきじゃないかなというふうに考えているところです。

○井川委員長

津川委員。

○津川委員

分かりました。ずっと片づける作業も見させていただいて、そんなに大人数で大きな機械、ユンボが何日間か来てましたけど、作業人数も少なく、そんなにはかかってないよう思うんですが、ただ、手間ですわね。今は恐らくこれから作付をされるであろう方が準備、最後の後始末というんですか、やっておられたようで、これはいい事業だなと思いますわ。遊休農地対策にしてもいいんで、これを委員会としてももっと宣伝して、これで農業振興と併せて振興するっちなほうがええかなと思ったりもしましたんで、その辺についてどう思われますか。

○井川委員長

中原局長。

○中原農業委員会事務局長

一昨年からこの事業を北栄町でも取組を始めてまして、妻波地区でハウスの撤去と整備をして、新規就農者の方に農地をお貸しして、令和6年度からスイカの栽培をされていらっしゃるという農地があります。また、今年度については六尾以外に原地区で水田を整備して、きれいにして使われるというものに活用しておりますし、今、妻波と大谷でちょっと相談を受けているというようなものがあります。昨年の3月定例議会だったか、予算の説明会だったか、どちらかだったと思いますけども、議員さんのほうからもっとPRをしたほうがいいんじゃないか、知られない方もあるのでということの提案をいただきまして、令和6年の7月発行の農業委員会だよりには写真を載せてPR等をさせ

ていただいたんですが、そういったものも継続してやっていきたいなというふうには考えてますし、いろんな場面でそういったことを発信していきたいなというふうには考えているところです。

○津川委員

ありがとうございました。失礼しました。

○井川委員長

いいですか。

○津川委員

はい、しっかり分かりました。どうもありがとうございました。

○井川委員長

そのほか。

油本委員。

○油本委員

ごめんなさい、ちょっと当事者なもんで伺います。たしかそのとき、この方がおっしゃった意味が、もう1回ちょっと私も思い出してみたら、見た目が悪いから何とかしてくれと、撤去だけでもしてくれんかということが、それがまずメイン、言われた方の中心になっとるんですね。清水課長がおっしゃるように、新たな支援作物があれば撤去の補助金も出るということだったんですけど、つまり、そういう作物の新しく作る計画がなければ、ビニールハウスなりなんなり、鉄骨なりのパイプ、その撤去の補助金はまず出ないと、そういうことでよろしいですね。

○井川委員長

中原局長。

○中原農業委員会事務局長

今の現状では、次に生産をするということの計画がないと事業実施ができないという状況になります。

○井川委員長

そのほかございますでしょうか。

阪本委員。

○阪本委員

六尾の部落の出前座談会ですね、このことの出てきた意見の中で、いわゆるお台場いちば、道の駅大栄のことについてはどうなるっていう心配をしておられるでしょう。北条の道の駅の話が出た頃に、まず行政側は地域の人たちからアンケート取って、結局、直売のいろんなことの要望があった。

○井川委員長

阪本委員、今はビニールハウスの撤去費用の関係の質問ですので。

○阪本委員

ビニール、今はそれですか。

○井川委員長

はい。

○阪本委員

後でいいです。

○井川委員長

そこは、今日は予定ないです。

○阪本委員

はい。

○井川委員長

じゃあ、そのほかありませんか。ちょっと私、1点だけ聞かせてもらっていいですか。

○津川副委員長

委員長。

○井川委員長

先ほど清水課長のほうからそういう、(中原)局長のほうから撤去費の関係で、いわゆる砂丘地において白ネギ、ラッキョウ、ブロッコリーもあったですかいね。(発言する者あり) ブドウはあったっけ。

○清水産業振興課長

白ネギ、ブロッコリー、ラッキョウです。

○井川委員長

あとは新規就農者の関係ということについては、いわゆる補助金はありますよということだったんですけど、例えば今の就農者の方で、スイカを増反したいと。それで、そういうところいわゆる古いハウスがある。北条でいうと例えばブドウですけど、その古いやつがあってそれを撤去したいと、きれいにしたいとなったときには、そういうものはもう対象にならないと。別にそこは大丈夫ですかね。

○津川副委員長

中原局長。

○中原農業委員会事務局長

農業委員会が実施している事業については、担い手となられる方、今ある地域計画、今度は地域計画の中に担い手として位置づけられている方というようなことも要件はありますが、作物の指定はありませんので、ある程度、これからやっていきたいと言われるような方がある場合は、そういった方、担い手になっていただければいい方ですので、地域計画の中に入ってなければ位置づけて、こういった事業を活用するという事は可能だと思っています。

○井川委員長

分かりました。オーケーです。ありがとうございました。

○津川副委員長

では、委員長に返します。

○井川委員長

そのほかありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○井川委員長

では、ないようですので、以上で産業振興課、農業委員会からの聞き取りは終わります。じゃあ、もう産業振興課、農業委員会は結構でございます。御苦労さまでした。

(9:48)【清水産業振興課長、中原農業委員会事務局長 退室】

○井川委員長

では、続きまして、コナン通りの歩道除雪について、観光交流課及び地域整備課に行いたいと思いますので、皆さんのほうで確認してみたいこと、聞いてみたいということがあればお願いをいたします。

津川委員。

○津川委員

この問題が出たときにね、鳥取県の河川・道路ボランティア促進事業っていうのがあって、ボランティア団体を立ち上げて、そのボランティア団体で河川の草刈りだとかごみ拾いだとか、清掃作業だとかやって、補助金を出しますっていう制度があるんで

す。3段階あって、真ん中の段階いうと除雪っていうのもあって、県道沿いの歩道の除雪っていうのが条件になっって、そんなのを使うのがいいのかな。町道じゃないけんね、あのコナン通りのはね。県道沿いの歩道の除雪っていう意味ですけどね、この問題は。ということになると、やっぱりこれ県の事業を使って、何とかボランティアでやるのがいいのかなっちなことを勝手に思っったです、私は。そのことについて、何かアドバイスや御意見があったらお聞きしたいんですが。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

今、津川委員さんのほうから御紹介をいただきました県のほうのボランティア制度、ちょっと私のほうからも改めて御説明をしたいと思います。県のほうの除雪ですけど、まず、コナン通りは県道の由良停車場線ということで、県が管理をしておりますし、除雪も担当しております。県の除雪に関しましては、車道だけではなくて、歩道も行ってあります。積雪の基準がございまして、歩道の場合は20センチを超えた場合は作業委託を出しております。業者のほうが歩道の除雪を行うというものがまず基本としてあります。ただ、津川委員さんに御紹介いただきましたボランティアによる除雪というものも想定をしております、参加型、協働型、スーパーボランティアの3段階がございまして。その中で協定型のボランティアということで、県とあらかじめ協定を結んで、500メートル以上という下限の距離がありますけども、500メートル以上する場合は事前に協定を結んで、その協定で結んだ場所の除雪を行うと、それに対して幾らかの費用が出るというような制度で行っております。では、コナン通りにそういったボランティアが、申込み登録があるかということですけども、残念ながら除雪に関しては、コナン通りだけではないんですけども、ボランティアでされているところはないということ、県のほうから伺っておりますので、制度としてはあるんですけども、なかなかそれに応えてくださる方がいないというのが現状でございまして。以上です。

○井川委員長

津川委員。

○津川委員

私が思ったのは、単価も安いし、なら除雪どうすっだいて、除雪機買ってってなったら、恐らく採算に合わんと思うんで、町がというのか、まちおこしというのか、どなたかが音頭取りをしてボランティア活動の中の一環としてやってくれるような、そういう意識の醸成っていうか、ことを呼びかけるっていうぐらいしか、この委員会としても行動ができないのかなと思ったりしたもので、そこんところも一緒に、なら、行政のほうも、観光のほうも含めたところで、なら、一緒にちょっと検討してみようかなっちなんで、永田課長、どんなものでしょう。20センチまで待たないけんかいな、あそこは。もっと俺、早せないけんと思うんだけど。

○井川委員長

永田課長。

○永田観光交流課長

そうですね、観光交流課のほうで持っている予算で除雪費は確かに少額ですけども、若干用意はさせていただいております。今、中原課長のほうからもありましたとおりで、県でやっていただくというところの部分で、確かに先ほどありました草刈りとかっていうのは、春先から秋にかけては地元の団体の方が、我々も出ることもあるんですけども、そういったボランティアということで、草刈りをして、観光客の方をお迎えしようという意識はこれまでもずっとやってありますし、ただ、雪が降る時期の場合でいきますと、

これシルバーに除雪費を出してお願いしたりっていうのもあるんですけども、コナン通りでいきますと、コナン通りというのは由良駅からふるさと館までの区間になりますので、雪が降るという前提が起きますと、まず、近年で多いのは、公共交通機関というのは割と早い時点で、先月もそうだったんですけども、割と早い時間で計画運休を出されたりとかっていうこともあります。ですから、コナン通りを歩いていらっしゃる方も、ほとんど公共交通でいらっしゃるお客様だというふうに認識しておりますが、そもそも駅にお客様が降り立たれない状況もあるというところ、それから、あと確かに津川委員さんのお気持ちもすごく分かりますし、例えば我々だったら観光協会の職員なんかでも、町なかにはたくさんオブジェ造ってますので、オブジェなんかも、除雪なんかでも職員も含めて行って除雪もしたりとかするんですけども、そもそもそこにまずたどり着いていくっていうことを、我々がそもそも出勤してるっていうところもありますし、大雪が降ったりすると、そもそも作業に出ること自体も非常に困難なところもありますので、まずは車道が除雪されてから我々出勤して、そこに行って除雪をするという、その段取り踏まないといけないというところ、なかなか結構時間もかかってしまうというところが現状厳しいのかなというところですし、協力をしていただける方っていうことになりますと、ちょっとこちらから改めて民間の方にもお願いをしていったりとかという、作業も必要になるかと思うんですけども、働きかけを、例えばいろんな関係者が集まれる、例えばまんがのまちづくり企画実行委員会とか、いろんな団体の方が集まれる会などもありますので、仮にそういうところで啓発をするというようなことは、やるということであればできなくはないと思うんですが、あとは協力者がいるかというところは、そこからの話になるかと思っております。

○津川委員

分かりました。ありがとうございました。結構です。

○井川委員長

そのほかございますでしょうか。

前田委員。

○前田委員

ちょっと今のボランティア制度は初めて聞いたので、それでボランティアもなかなか応募もないだろうし、課長が言われるように、大雪の日にそこまで出てくることも困難だということ、今年というか、この数年ね、すぐJR止めたりとかしますけど、実際、雪ってほとんど降らないなみたいな。なので、来て除雪すること自体はあれなんですけども、コナン館(青山剛昌ふるさと館)近くなりますし、特に橋の辺なんかはそうですけども、津川委員が言われるように20センチの基準まで、やっぱり町としての対応なんですよね、結局は。県の20センチを待ったっていいんでないかっていうのが、やっぱりこの六尾の方もですし、今まで議会とかでも、今まで吉岡(元)地域整備課長だったときなんかでも出よりましたけどね、話が。やっぱり県の対応を待っていると、観光客さんにいけんでないかと。やっぱり公共交通機関使うんじゃないかって車で来られる方もたくさんおられるわけで、やっぱり町の姿勢なんですよね、結局は。なので、これはこの後、また委員会でしていくんですけども、町の姿勢として、今後立派なものを建てて、せっかくおもてなしの心で、来てもらっておもてなしだということやっていくんだしたら、やっぱり1年に何回もあるもんでもないしね、そんな費用的にも知れてると思うので、もうちょっと基準を下げて、10センチなら10センチになったら。車通りは車が走るけえ雪が消えていきますけど、歩道のはいつまでも消えないんで、ある程度、業者さんに頼んででもやっぱりやっていくということ大事じゃないかなって、ずっと思ってるんですけど、その辺は今まで検討とか、何か町でやるよみたいな、そういうのはなかったですかいね。過去、その辺のこともあったかもしれないですけど、今現状はどうなん

ですか。今後も含めて、もうできるのに物だけ建って、そこに行き着く動線が駄目だよじゃあ、来てください、来てください、コナン通り歩いてください、お金落としてくださいって言えないですよ。というところなんです、この問題は。以上です。

○井川委員長

永田課長。

○永田観光交流課長

そうですね、確かに予算の中でも除雪費はうちの観光交流課のほうでも組ませていただいているものはあります。ただ、実際にはこれまでの事例でそこを使うということはほとんどなかったように記憶しております。やはり先ほど説明いたしましたように、県のほうが基準でやっておられるということもありますし。ただ、先ほども津川委員さんのほうで答えしましたが、オブジェなんかに関しては職員が出ていたり、観光協会の職員と協力して除雪をしたりというふうなことはこれまでもしてまいりましたので、その辺りは引き続きさせていただきたいと思っております。

それから、今、前田委員さんが言われたように、今度、新しいふるさと館は駅のほうに、徒歩の時間でいきましたら徒歩10分ぐらい圏内に近くなってくるというところもありますし、当然、これまでも議会の中でお示ししているように、新しいふるさと館には大きな駐車場を整備して、車でいらっしゃる方もアクセスがいいところですから、当然、雪が多少あっても車でいらっしゃることはできると思いますので、そこから町なかについていうところに関しましては、新しいふるさと館のほうで、そういったところも含めて、例えば予算の中で除雪費用を組むだとか、そういったこともちょっと考えていかないといけんのかなと思います。あとは除雪をどれぐらいしとるかっていうのも、ちょっと正直、そのときの状況とかにもよりますし、すごく降るとるようなときなんかですと、そもそも作業で出ていただくシルバーの方が、どっちかって、そもそも作業するところに出ていただくのでも難儀されるとか、そういうことも想定されるので、そのときの状況を見ながらの判断になろうかなというのが、ちょっと今の時点ではそこまでしかお答えできないかなと思っております。

○井川委員長

前田委員。

○前田委員

ちょっと一つ教えてほしいんですけどね、ふるさと館の除雪の費用をっていうのは、それは必要ないと思っておるんです。ふるさと館に行くために、それは確かに除雪だけど、あくまで県道で、町がすべきことであって、町がすればいいと思とるんです。ふるさと館の予算使う必要なんかななくて、地域整備課のほうでそういう建設業者さんなりね、何かボランティアさんはなかなか難しいと思うんですよ。町の職員さんもずっと出んさるのも難しい、シルバーさんもなかなか雪が降るたびに来てくださいねっていうのは難しい、やっぱりある程度基準を、ちょっとそこは基準を下げて、町の基準を下げてやればいいんじゃないかなと思うんですけども、さっき言ったみたいに今後話し合うんですけど、そういうことは、町の基準は自分たちで下げてできるでしょう、町も、単費でやるんだったらということをお聞きをしたいです。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

今、町が行ってはどうかという御提案ですけども、町の今の除雪の基準としましては、歩道と車道と分けた場合の車道しか行ってないが、歩道については町では行ってないという状況がございます。観光振興の中でコナン通りだけ歩道を行う、町として除雪を行うことの点については、またちょっとその検討が必要かなというふうに思います。

ただ、実際、町は別途、建設業者さんのほうに作業を委託しております、車道に関して。重機が不足しがちで、オペレーターである従業員さんも不足しがちということで、除雪の路線自体もいっばいの状態がある中で、では、なら、そこを歩道もしてほしいからということが業者さんのほうに御相談できるかという課題もあろうかと思えますけれども、観光の振興と併せて、ちょっとそこは考えてはみたいと思えますけれども、難しい状況があるということは御理解いただければというふうに思います。以上です。

○前田委員

分かりました。

○井川委員長

そのほかありますでしょうか。

ちょっと1点だけ、いいですか。

○津川副委員長

井川委員長。

○井川委員長

六尾の方も言われとったんですけども、今の現状として、やはり言われたように県道なりは除雪はされると、県のほうで。歩道はそのままされていないということで、観光客の方っていうのは、実際そういうときにはもう車道を歩いておられるんですよね。先ほど永田課長、そういう雪が降ったら交通機関が止まっちゃって、移動っていうのあったんですけども、実際、今の現状として、少々の雪でしたらちゃんと通りますし、やはり歩道に雪がたまって、また車道の除雪した雪が歩道のほうに入ってくるということで、観光客の方はその歩道を通らずに車道を歩いていってるのが今の現状で、やはり見とる町民の方からあったんですけど、もう少し、コナンに来られたのに、おもてなしの心をもってすれば、町としてもそういう歩道の除雪をしたらどうかなというような意見を言われとりましたんで、こういう多分意見が出てきたと思うんですけどもね。やはりそういうことがありますんで、もう少し歩道についても、何かいい手だてがあったら考えていただきたいというのがやはり今回、六尾のほうで出た意見のことだというふうに思いますけれども、それについてはちょっと、先ほど答弁されたんですけども、やはりそれでもどうにもならないということなんですか。ちょっとそこだけもう一度お聞きしたいんですけども。

○永田観光交流課長

そうですね、私も確かに、井川委員長さん今おっしゃったように、かいてある車道のほうを歩いておられる観光客の方、度々目にしてまいりました。ですので、確かに苦々しい思いを持ちながらも、雪が降る中でもお越しいただいてるところは非常にありがたいなという気持ちでは、皆さんと同じ気持ちだというふうには認識しております。ですので、当然人員のことであったり、機材のことであったり、いろんな事情もある中で、限られたリソースの中で除雪っていうものに当たっていかないといけないと思いますので、簡単に、はい、やりますということを明言することはちょっと今の時点ではできないと思うんですけども、雪が降ってもやっぱり北栄町に行きたい、コナンを見に行きたいとおっしゃるお客様がおられることは事実ですので、そういった方に対してできるだけのおもてなしの心というのは持ち合わせて、それがちょっと除雪という形できちんと都度都度できるかっていうのははっきり明言ができないので、申し訳ないんですが、そういうところは、町の観光に携わる立場の者としてはきちんと迎え入れるというお気持ちと、それをできるだけ行動に移せれるように努力はさせていただきたいと思っております。

○井川委員長

分かりました。よろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

では、この件につきましては、以上で終了いたします。そうしますと、所管事項につきましては以上で終了いたします。では、観光交流課長、永田課長は退席していただいて結構でございます。

(10:05)【永田観光交流課長 退室】

(2) 付託議案の審査

○井川委員長

では、そういたしますと、次に、付託審査に入ります。

本定例会におきまして、本委員会に付託された議案は1件でございますし、付託された陳情も1件でございます。審査につきましては、お手元の日程に従って行います。

そういたしますと、審査事項の2番、付託議案の審査に入ります。審査の手順でございますけども、まず、議案について質疑を行い、執行部退席後、採決に入りたいと思います。それでは、これより議案に対する質疑を行います。

議案第32号、北栄町農業集落排水事業廃止に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について質疑を行います。この件につきましては、皆さんのほうで何か質疑ありましたらお願いします。ございませんか。

前田委員。

○前田委員

前からちょっと考えとったですけど、農業集落排水、前から一つになったらいいなっていうことで、大分前、もうそれこそ合併の頃から言ってきました。今までの北条島っていうことで、滞納がなかったですね。やっぱり地区内で滞納するわけにならんっていうことで、滞納がなかったんですけど、今度、公共になると、滞納っていうのも少し出てくる可能性もなきにしもあらず。そこら辺の件っていうのはやっぱりしっかり対応しておかないといけないのかなと思うんですけど、何か対応しておられるんですか。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

下水道使用料の徴収に関してでございますが、これは農業集落排水事業、また公共下水道事業、合併処理浄化槽事業につきましても同じ中で徴収の取組を行っております。幸い農業集落排水事業、ほぼ100%のような形で使用料のほうは集まってきておりますが、基本的には口座引き落としの方が多いかと思いますので、簡単にまた滞納が増えるというような状況ではありません。そして、仮に未納であった場合、現金納付の方が未納となった場合につきましても、今年度の例で申しますと、夏ぐらい、冬ぐらいに担当課としての徴収強化月間というのを設けまして滞納整理に当たっておりますので、現年度、あと過年度分の滞納につきましても削減、少なくなるような取組を現在行っておりますので、現時点では直ちに農集が統合されたからといって滞納が増えるといったことの想定はしていないところでございます。以上です。

○井川委員長

前田委員。

○前田委員

それは分かります。ただ、ちょっとお聞きしたいのが、今までは農業集落排水っていう名目で口座から落ちよったと思うんですけどね、今度からは下水で。いわゆる僕も島(北条島)の人に聞きゃよかったのかもしれないんですけど、よく口座の名義とかが変わると皆さんに判こを押してもらってとか、引き落としの、そういう手間は一切かかってないんですね。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

徴収に関しまして、今回、農集から公共下水のほうに変わるからといって、口座のほう再登録してもらうというような手続はありません、引き続き。特に住民さん目線、立場で何か変わるというようなことはないというふうに思っております。以上です。

○井川委員長

よろしいですか。

そのほかありますでしょうか。

阪本委員。

○阪本委員

今、農集と公共も全部一緒にすると。我々も以前からそれがいいと。ただ、我々言ってきたのは、結局、自治体が違っても、やっぱり例えば大栄の浄化センター、これに結局、倉吉市の灘手地区とか、あそこの上神ですね、ああいったものを結局、北条の処理場のほうに引っ張っていけば効率がいいじゃないかということを書いてきたんだけど、何だかこれの説明では、中部が全部で結局あっち持ってきたり、こっち持ってきたりというような話になつるとということですが、すごい経費がかかるんじゃないかなという、事業費がね、そういう心配しとるですけども。そこら、どこまで進んどるですかね、そういうふうな話は。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

2月の14日だったでしょうか、全員協議会の中で、中部の下水道事業、広域化、共同化という話と、あと、民間への委託のウォーターPPPと呼んでおりますが、そういった事業の検討状況について御説明をさせていただきました。今その中部の共同化に関してでございます。北栄町はもう既に農集事業が統合して、公共下水事業として中部にどう関わっていくかという話であります。一方、倉吉市ですとか、ほかの町に関しましては現在も農集事業を行いながらやっておりますので、この共同化に関しては農集事業も一緒に天神川の処理場のほうに持っていきたいというようなことで構想が立てられております。今お話がありました倉吉市の灘手地区に関しては、北栄町を經由して天神川の処理場に持っていこうというような案がございます。当然、接続するに当たっては配管とかというようなことが生じますけれども、そこにつきましては、まだどういった形でとか、誰が負担して誰が行ってというところはこれからの話になりますので、構想としてはあるというようなところで御認識いただければというふうに思います。以上です。

○井川委員長

よろしいですか。

阪本委員。

○阪本委員

この前、旧大栄の、いわゆる下水道の使用料が高い高いっていいますね。県内では高いと思います。合併前に、早くしてほしいという町民要望があって、それから、栄地区のほうに、下種の下のほうに、いわゆる農集の関係の施設の計画があったんだけど、結局、一本化してもらわないけんという要望が出てきて、それで結局、工事そのものが事業費が増えちゃったんですよ。それと同時に早せえちゅう、合併前にせえっていう声があったもんだけえ、開削をして、結局、川とか道路とか、普通開削してやるんだけど、時間も費用もかかるということで、両方に穴空けて、もう川の下でも推進工法っていう、それができる業者が広島にあるということで、高くなるけども、やっちゃわいというこ

とでやったから高いんですよ、事業費が膨れたということ。だけえ、そうやって、いろいろ問題がありましたけども、やっぱり北条と一緒にするときもいろいろ問題があったんだけど、だけど、現状のまま来ちゃった。北条の場合は県のおそこの長瀬の浜のほうに処理場ができて、倉吉市、それから湯梨浜町の、羽合の辺、それから、北条の江北付近があそこにお世話になった。非常に効率がよかったと思うんです。そういったことを考えると、ええんだけど、けども、あっち持っていき、こっち持っていきというのは果たしてええかという心配するんです。

○井川委員長

中原課長。

○中原地域整備課長

下水道は北栄町、他町、他県の全国的な状況を見ても、整備率っていうのは高い、早く事業が進められているといいます。それに伴って当然、事業に要した起債、借金の返済があるということと、あと北栄町の事情でいいますと、処理場が2つあるという、処理場の維持管理というものについてはやはりかなり費用が発生しておりますので、今の共同化の話が進めば、大栄、北条の処理場は処理場としては使わない形になりますので、その維持管理費がかなり低減されるというふうに思っております。メリットはそういうところにあるかと思えますし、あと、やはり、では、農集事業と公共下水道事業したときに、それぞれの町の地形だとか、そういう事情があろうかと思えます。地理的に広いようなところで下水道の配管をはわせようと思ったら、やはりそこだけでかなり費用が発生しますので、そういったところについては、やっぱり農集事業を止めていきながら、下水道のほうを普及を進めてきたというのはこれまでの例でありますし、他町で農集事業を多くしてるのはそういった事情かなと思っておりますので、その辺の処理場の経費、配管としての費用、そういったところをてんびんにかけながら、今後、なら、どういう形がいいのかというところで検討しておりますので、あくまでも本町の担当課の立場としては、それは住民さん負担が低く抑えられる方法はどれがいいのっていうところで検討をしておりますので、その中で今見るとことしましては、共同化についても一つメリットが多い、北栄町さん、下水道の使用料高い水準でありますので、そういったことが抑えられるのではないかという期待の下、検討を行っているところでございます。以上です。

○井川委員長

まだありますか、この条例の制定についての関係で。

○阪本委員

分かりました。

○井川委員長

その他ありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○井川委員長

では、ないようですので、以上で本案に対する質疑を終わります。

以上をもちまして付託された議案の質疑を終わります。では、中原課長は退席されて結構でございます。お疲れさまでした。

暫時休憩します。

(10:17)【中原地域整備課長 退室】

(10:17~10:18)【休憩】

○井川委員長

では、休憩前に引き続きまして再開いたします。
それでは、ただいまより討論、採決に入ります。
議案第32号、北栄町農業集落排水事業廃止に伴う関係条例の整備に関する条例の制定
について、討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○井川委員長

討論がありませんので、採決を行います。
本案は、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○井川委員長

御異議なしと認めます。よって、本案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。では、委員会報告につきましては、どのようにまとめさせていただきますでしょうか。委員会報告につきましては、委員長に御一任でしていただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○井川委員長

では、そのようにさせていただきます。
それでは、暫時休憩をして、10時35分より再開いたします。

(10:19~10:34)【休憩】

(3) 陳情の審査

○井川委員長

そういたしますと、休憩前に続きまして会議を再開いたします。
続きまして、審査事項の3番、陳情の審査に入ります。

令和7年陳情第1号、「最低賃金法の改正と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情が出ております。この件に関しましては、既に皆さん読んでおられると思いますので、皆さんよりこれから御意見を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

油本委員。

○油本委員

まず、私は拝読しております。不採択でお願いします。まず、決定に至ったプロセスを説明しますね。

まず、今、石破政権のところ、1,500円、これを2029年まで、いわゆる2020年代にということで1,500円やってますけども、ちょっと長くないつもりで言いますけども、今2024年度が1,055円、ここに書いてあるとおりですよ、加重平均が。それを1,500円にするために、するためだけでも445円かかる。ということは、年間5年間で89円アップしなきゃならない。年平均が7.3%となるんですよ。最低賃金の引上げは、過去最高が1980年度の6.9%、単年でそうなんです。ずっとその7.3%、先ほど申し上げました89円を5年間継続するっていうのはちょっと困難じゃないかという、非現実的ではないかという向きもあるということで、経済実態に見合わないペースということも考えられます。そういったことで、最低賃金が急速に引き上げられました場合に、企業自体が人件費の負担そのものが過剰となり、最低賃金労働者の雇用環境がかえって悪化するおそれがあるのではないかとということが懸念されるんですよ。最低賃金の引上げ、つまり、そういった最低賃金労働者の生活安定を、最低賃金引上げと最低賃金で働く方たちの生活の安定を両立するためにも、賃金相場などの経済状態というものを十分に踏まえて、最低賃金の水準の引上げを決める必要があると思うんです。ですから、一気に1,700円

ということを2番にうたってらっしゃいますけども、そこに私は抵抗を覚えて、ちょっと無理ではないかと思って、不採択というふうにさせていただきたいと思います。以上です。

○井川委員長

ありがとうございました。

ほかの委員さん、お願いします。

前田委員。

○前田委員

私も、これ、もう今までもずっと出てきてるんですけど、不採択です。今、油本副議長も言われたんですけども、さっき言った、確かに石破総理が1,500円っていうのを打ち上げてやりましたけども、実際いきなり1,500円は無理っていうか、こないだ(この間)まで1,000円も無理っていうのをずっと言っていましたけども、実は最近1,000円で求人を出しても職種によってはもう全く来ないですね。1,000円以上出さないと今は来ない時代になってきてるんで、時代がどんどん変わってるんだなとは思いますが、それに即して、なら会社の収入というのが、例えば下請業者とかでも、大本のほうからそれなりの金額が来ていないとか、それに加えて、ずっと反対してきてますけども、例えば3番の中小企業・小規模事業所への支援を拡大することっていうのはずっと出るんですけども、根本的に何の案も示されてきていない。例えばちょっとは出てるんですけども、給与をここまで上げたら、その会社には、例えば100万円なり200万円なり1,000万円なり補助しますよって、そういうような、はっきりした支援策が出てきてない状態で、給料だけをどっと上げるってなると、やっぱり会社が今度はもたないと。やっぱり会社と従業員さんとは持ちつ持たれつで、やっぱりお互いの契約で成り立っていますので、例えばそういうことで、はっきりした支援策がなかなか示されていない中で時給だけをぐっと上げるっていうことはできない。不採択です、ということです。

○井川委員長

分かりました。

町田委員。

○町田委員

今と全く同じ意見です。私も反対です。やはり最低賃金上げるのはいいんじゃないかと思いますが、肝腎の国とかの支援策がほとんど示されていない中では、賛成することはできないと思います。

○井川委員長

ありがとうございました。

そのほか。

阪本委員。

○阪本委員

私も不採択です。今、経済状況が悪化してきております。倒産する会社も非常に多いと。特に町の中小企業は苦しい状況にあります。特に農家あたりは規模拡大して結局、人手が足りないということで、いろいろ苦しんでおられる農家があります。その中で、こういった支援のために賃金を上げるということについて、いいことではありますけども、やっぱり実態に合わないという思いで、不採択としてほしいと思います。

○井川委員長

秋山委員。

○秋山委員

不採択です。皆さんが言われるとおりだと思いますけど、全国一律にするということは、最終的にはそうなっても、現状では無理。2番目のことについても、1,700円がどう

いう根拠で、いつ頃実現を目指してるのか根拠がないということや、以上のようなことで不採用ということです。

○井川委員長

分かりました。

津川委員、どうですか。

○津川委員

基本的には採択すべきものだと思います。ただ、条件的に1番の一律制度っていうのは早急過ぎますし、直ちにというふうに書いてありますが、1,500円の実現が。そこまでは許容できますんで、3番は特に大きな声をしてというようなことでありますが、採択か不採択かと言われれば採択ということで手を挙げます。

○井川委員長

採択ね。

○津川委員

採択です。

○井川委員長

では、皆さんから意見をいただきました。まだもう少し言っておきたいということがありましたら。(発言する者あり)

では、皆さんの意見も出たようでございますので、これより決を採らせていただいでよろしいでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり)

では、採決を行います。この陳情につきまして、採択すべきものという方の挙手をお願いします。

[賛成者挙手]

○井川委員長

1名。

では、不採択という方、挙手をお願いします。

[賛成者挙手]

○井川委員長

5名。

そういたしますと、採択が1名、不採択が5名ということでございますので、本委員会におきましては、この陳情につきましては、不採択とすべきものということに決定をさせていただきます。では、委員会の意見ですけれども、どういう格好で意見を出させていただきますでしょうか。

油本委員。

○油本委員

私のまとめた範囲で申し上げます。ちょっと大和総研さんの言葉を一部引用してるんですけども、最低賃金の急速な引上げは、企業の人件費の過重な負担……。

○井川委員長

ちょっとゆっくり言ってね。

○油本委員

また言いますから。取りあえず言いますから。

最低賃金の急速な引上げは、企業の人件費の過重な負担となり、最低賃金労働者の雇用環境を悪化させるおそれがあるというふうにまとめてありますよ。いいですか、じゃあゆっくり読みますね。(「はい」と呼ぶ者あり)「最低賃金の急速な引上げは、企業の人件費の過重な人件費の負担となり、最低賃金労働者の雇用環境を悪化させるおそれがある」これが私の主張した範囲です。以上です。

○井川委員長

ありがとうございました。ほかの皆さんは。

津川委員。

○津川委員

事務局のほうで、令和4年の3月定例会でいろいろ陳情の報告をしていただけてますが、まさに内容を今確認しましたけど、同じような内容での陳情でした。その中で、まず、理由として、中小企業支援策の拡充を求める本陳情の趣旨は理解できるがっていう、そのとおりであります。理解できるが、公的支援が不十分な現時点において、時給1,500円という大幅な最低賃金の改善は、中小零細企業と農業が基幹産業である本町の実態にそぐわないって意見が、私は今の時代にも合うかなと思うんで、この文章を参考に、ぜひこの文章でお願いしたいと思います。以上です。

○井川委員長

そのほかの委員さんはどうでしょうか。

前田委員。

○前田委員

私も津川委員と一緒に、これは前のときに、先ほど私も意見を述べましたけども、公的支援っていうか、はっきり示されていないと。その中で、とっても無理、反対ですよということをおっしゃっていただきました。これを中心に油本委員さんの言われたのが何かうまく入れればいい、もっといいのかもしれないですけども、それが難しければ、同じこれでいいかなというふうには思います。以上です。

○井川委員長

阪本委員。

○阪本委員

私も、津川副委員長の案に賛成です。

○井川委員長

秋山委員いいですか。

○秋山委員

すみません。前段は、津川委員の中小企業にのところから、公的支援が不十分な現時点においてっていうところは津川委員で、長くなっていいのであれば、後半部分は油本委員の文を付け加えるというか、一緒にした形でいいのではないかなと思います。以上です。

○井川委員長

町田委員、どうですか。

○町田委員

同じです。

○井川委員長

今3つの意見がありまして、どういうふうにまとめましょうか。

○油本委員

委員長一任。

○秋山委員

一任でいいです。

○井川委員長

じゃあ、ちょっと大体皆さんが言われることは同じですので、一応ここはまたまとめさせてもらって、皆さんにまた見ていただくということでやらせていただきますので、それで御了承いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

では、以上で審査事項は終わらせていただきます。

4 協議事項

○井川委員長

続きまして、4番、協議事項に入らせていただきます。

(1) 6月定例会の調査項目について

○井川委員長

協議事項の1番、6月定例会の調査項目についてでございますけども、6月定例会の調査項目につきましては、従来どおり、それぞれ各担当課のほうに調査事項がありましたら事前に通告をいただいて、またやらせていただきたいというふうに思いますので、そういうことでよろしいでしょうか。

前田委員。

○前田委員

この場でいいかどうかなんですけども、その他かもしれないですけども、事前は当然今までどおりのスタンスでいいと思うんですけど、先ほど阪本委員がやっぱりいろいろ質問も絡めてしたかったりとか、急にやっぱり、急な質問はしたらいけないのかもしれないんですけども、やっぱりちょっと急ぎでとか、何か、帰っちゃわれるんで、やっぱり皆さんの知識も深まる面もあるので、何か、例えばそこでちょっと今の協議とは違うことになったとしても、そんなんは1回切って、先ほどのを許可しますとかみたいな感じでね、もう一回どうぞみたいなんでもやってもいいかなとも思ったりはするんですけど、いけんかったらいいです。やっぱりそれも進め方なので、委員長として、いや、その進め方はいけないので、やっぱりちゃんと事前に申し込んでくださいということだったら、それは今までどおりのスタンスでいいと思うんですが、ちょっとその、せっかく協議事項なので、協議してください。

○井川委員長

油本委員。

○油本委員

私も同じこと言おうと思ったんですけど、いわゆるその他というものが大概のこういった委員会なりなんなり一番最後にあるんですよね。ですから、事前に通告したものが終わりました、ほかに何かございませんかって、そのコーナーは設けていただければ、皆さんの気も晴れるんじゃないかと私は思っています。以上です。

○井川委員長

阪本委員。

○阪本委員

その他でやっぱり対応してほしいと思います、せっかくの機会ですから。詳細については委員会で議論してくださいとあったもんですから、その他やなんか拾ってもらえると思ったんだけど、せっかくの機会ですけえな、もう言われん、もう決まっとるなんてな話はちょっとどうかと思います。よろしくお願いします。

○井川委員長

津川委員。

○津川委員

今までのお話の中で、先ほどの日程表の中の所管事項の調査についてのその他を入れてくださいっていう要望だったんです。そういうことであると、まず、今日の進行の具合によると、環境エネルギー課終わりました、では、退席、産業振興課と農業委員会が退席っていう手順を踏みました。どこで、じゃあ、その他を入れるのか、入れないのか。そして、じゃあ、何のための通告制なのかっていうことですね。そのところをちょっと整理していただいて、その他で入れるのはいいんだけど、じゃあ、担当課に全員残っ

てもらって、ここの所管事項の調査についてのためのその他なのか、全体のその他なのか、整理して進めていただかないと、なら、最初から通告ほとんどせんでも、……（聴取不能）以前みたいに。予算取ろうが何とろうがね、ええがな委員会やらいや、最後まで、全部やらいやって言うんなら、それでええけど、予算決算常任委員会ができて、予算のほうはあっちに任せましょう、所管の条例とかなんとかを、それから管轄する特に深掘りしたいところを委員会でやりましょうって分けたら、それじゃ意味がなあなっちゃわんかなと私は思うんですよ。そういうところを整理して、ちょっと進めてください。

○井川委員長
阪本委員。

○阪本委員

結局、この六尾で出前座談会があったということで、いろいろ意見があったことも私も承知してました。その分にやっぱりお台場いちばの運営について今やっとする人たちが、何だかもうやめるような話があったもんですから、それで、それを確認したかったんで。

○井川委員長

今までの所管調査なんかにつきましては、事前に通告をいただいて、その担当課だけに上がってきていただくということになりますし、先ほど言われましたその他について、せっかくの機会だから、いろんな意見を聞きたいということになりますと、いわゆるこの民生経済常任委員会の担当する課、今回ですと、ここに福祉課とか健康推進課も上がっていただいて、その中でその他ということ全体のことを話しさせないけんというようなことになって、全ての課長に上がってもらわないけんということで、それが今までの従前のやり方だったんですけども、今回は委員会の改革がありまして、いわゆる担当の通告したところだけ上がっていただいて、今はやっとするということなんですけども、やっぱり元に戻せということでしたら、そういうふうにしますし、やはり今までどおりの通告制で上がってきてもらった、通告のあった課だけに対してやるのか、そのことをちょっと決めてもらったらと。皆さんの意見はどうなのかなと思いますけども。

津川委員。

○津川委員

今の、委員長、元に戻すっておっしゃったですけど、付託した事項について協議するのがこの委員会の仕事って分けたですよ。だから、付託されたことについて委員会で審査するんであって、先ほど条例の可否を委員会で決めたと。その流れの中で、所管事項の調査ってということについて、やり方を、それ以外のことで事前にこういうことを特に深掘りするがために、所管事項の調査についてってということで担当課、深掘りするために来ていただいて時間を取ってやりましょうってということで、その深掘りしたい何が本当にやりたいのかってというのがあったら、事前に委員長に通告して、それを担当課にこういう問題を調査して、きちんと答えられるようにしてよって、前田委員みたいに言って、調査するってというのがその本来の姿です。その他で関連してってやるんだったら、今までのどこでじゃあやるんですか。事前にそういう話聞いていらっしやっただんであれば、産業振興のほうにお台場、あの道の駅ができて、どうなるんだ。おかしいじゃないのって言いならよかった。

○井川委員長
前田委員。

○前田委員

津川委員が言われるとおりのです。全く私も事前通告制は今までどおりでいいと思うんです。ただ、その代わり、やっぱりせっかく来ていただいている、急遽どうしてもちょっとこれは聞いときたいという、でも、委員長の許可を得て、聞きたいことがあれば、

それはちょっと柔軟に認められたらいいかなと思うんですけど、当然、事前通告制は今までどおりされたらいいと思います。急に、やっぱり事前に通告しなくても、急ぎのことができたりとか、そういうこともあったりする可能性があります。先ほどの風力発電の関係も、事前に聞いてなかったのに、いきなり手前になってから言われてみたい、やっぱりあることもあるので、ある程度柔軟にそこは所管事項の調査、所管事項に入ってくるので、あくまで付託じゃなくて、所管事項の調査。あくまで事前通告制ですけども、もう少し柔軟に。その他で例えば、さっきもちょっと事前通告になかったけん、そんなのを切ったけど、阪本委員、そのお話は、なら、委員長が取り上げて、ちょっと質問、特別に質問どうぞみたいなのその程度の、そういう何ちゅうか、柔軟性でやんなったらええと。事前通告制は当然だと思う、やっぱり。

○井川委員長
油本委員。

○油本委員

今おっしゃるように、確かに私、昨日の朝です、関連の件でお願いしたのは。当然締切りは過ぎてました。そういったことがふいに話が出てきたもんですから、私もどうしてもお願いできませんかという、ちょっとお願いさせていただいて、ぎりぎりでしたけども、上がってきていただいたといういきさつがありました。

今、前田委員が言われましたように、通告はもちろん必要でしょうけども、その課その課の課長さん上がってきていらっしゃいますから、通告以外でも所管事項の調査というタイトルでしたら、それこそ柔軟に受けられるちゅうのも一つの選択肢かなと私は思って、そう申し上げたということです。以上です。

○井川委員長
前田委員。

○前田委員

思いつきでしゃべったわけじゃないですけど、ちょっと急に思いついたんですけど、行政報告会なんかも、載ってないことをちょっと聞きたいっていうときには、事前に議長に、今日ちょっと載ってないけど、このこと聞きたいけど、ええでしょうかって言って、開会前でも一言ちゃんと言えば、受け入れてごしなるじゃないですか。そういう形でもいいと思う。例えば阪本委員が今日もここにも載ってない、事前に通告してないんだけど、急遽このことについて聞きたいけど、どうだろうかって事前に言っとかれるのも一つだと思いますし、そういうの取決められたらいいと思いますし、委員長がそれでなくても、ちょっと所管事項、皆さん、僕も先ほどと同じ話になっちゃいますけども、例えば阪本委員が先ほど道の駅大栄のほうの生産者さんがやめるわいっていう声を何人も聞いとると、それは私たちからすると、ちゃんと聞いとかないといけないような話だになっていうふうになれば、委員長がやっぱりそこは取り上げて、先ほどちょっと大事な話された、ちょっと聞いてみましようみたいなの、そういう柔軟なところがこの所管事項についてのところがあれば、ありがたいかなというところがあるかなということをちょっと協議してほしかったんですけど。

○井川委員長

このことについて、秋山委員、どうですか。

○秋山委員

その他を設けて、どんどん広げるのはどうかと思うんですけどね、私はやっぱり基本は事前通告だと思います。ただ、事前通告においても、これを開会する前に急に関係することで起こる事象とかがあるんだから、そういうのはやっぱり開会前までに委員長に口頭でも申し出て、こういうことをその他で取り上げたいなっていうのをやっぱり事前にオーケーをもらってから。もう開会してしまった後で、その他で発言されるのはどう

かなという気がします。

○井川委員長

分かりました。町田委員、どうですか。

○町田委員

そうですね、やっぱり通告制でいいと思いますけれども、実は私も今日、その他みたいなものがあるのかなと思って考えてたことがあったんですけども、なので、何でもかんでもということではなくて、やはり所管事項のことなら何か。秋山委員が言われたように、通告、その日でもいいから事前に委員長にでも前に言って、発言ができるようなことにしてほしいなと思います。

○井川委員長

じゃあ、今いろいろと御意見をいただきました。うちとしては、所管事項につきましては、やはり原則しては事前通告ということで、上がっていただくところはその事前通告があった担当課長さんということで、その中でやはり以外で、例えばもしも、何か柔軟的ってのもありましたけども、やはり会議までに事前にちょっとこのことについて聞きたいだけということがあれば、そのときにまた、ちょっと通告以外ですけども、質問を許可するというようにさせていただきたいと思っておりますけども、それでどうでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

じゃあ、次回からはそういうふうで、あくまでも原則、事前通告。もしどうしても聞きたいということで、当日の朝までに事前に連絡をしていただきますようお願いいたします。ということで、よろしく願います。

津川委員。

○津川委員

ありがとうございます。そのように厳格なあれを持ちたいんですが、再度確認ですけど、開会が終わってから後の何とってという質問はいけませんよね、それとあわせて、通告の期限が終わってから委員長に申し出て、それは委員長の判断で、これは大事な案件だと、ぜひ聞くべきだという判断の下に許可していただけると。

そして、もう1点言いたいのは、この六尾の分について話進む中で、阪本委員は、さっきの道の駅のお台場いちばに出しておられる生産者の話をされたんです。産業振興課帰られた後になったんですよね。だから、本来質問する対象がいらないんですよ。それをその他を受けるってしちゃったら、全員ここに残ってもらわないけんことになっちゃうんで、そこのところはぜひ確認していただきたい。以上です。

○井川委員長

では、そのようにさせていただきます。

じゃあ、次に……。

○秋山委員

6月のはもう言ってもいいですか。

○井川委員長

どうぞ。

○秋山委員

いいですかいね、6月、これを取り上げてほしいっていうのは、もうまだ先の話で。

○井川委員長

また事前に聞きますので、そのときに願います。

では、次に行きます。

(2) 六尾自治会への出前座談会フィードバックについて

○井川委員長

協議事項2番、六尾自治会への出前座談会フィードバックについてということで、先ほどそれぞれ担当課のほうからいろいろと情報もいただきました。これについて、皆さんの意見も伺いたいと思います。

まず、ページ数4番の、いわゆる放置された農業用ビニールハウス、補助金を投入して建てたので、撤去するときも補助金なり使いやすい、そういう検討をいただきたいという意見について、集落のほうにどういう格好で対応方針等を出させていただけたらいいのか、まとめて皆様方の御意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

前田委員。

○前田委員

進め方についてですけども、今日、ビニールハウスの撤去の助成とか補助の話を書きました。このビニールハウスにしても、例えば次の、私も言わしてもらったですけど、町単費でやったらええでないかと、除雪を。そんなにしても、どのくらい例えば金額がかかるのかとか、そういうのを調べる暇もないと、単費で、ごめんなさいね、例えば委員会の中で、おもてなしもあるし、やっぱり危険、歩道じゃなくて車道を歩く人も多い、危険もあると、やっぱり県の20センチの待っとる暇もないから、やんなさいっていうふうに決まったとしても、例えばそこに行き着く、このくらいの費用でできるんじゃないのとか、そういうことを調査をするのが会津とかのフィードバックするときには、委員会でどこまで詰めるかっていうことだね。今日、ここで、さっとこれはやっぱり補助がないから駄目だとかっていう返し方をするのか、それでもやっぱり少しでも受け入れてあげて、やっぱりこういうのが使えるんじゃないのとかっていうのを調査する暇っていうのが。例えば今日、意見を皆さん持ち帰って、ちょっといろいろ調査をしたり、例えば個人じゃなくてチームをつくって調査をしたりとかして、それを1か月後なら1か月後にこの委員会開いてもらって、どうですかみたいな、そういう進め方なのか、今みたいに今日聞いて、ここでこうですよって決めちゃうのがいいのか、そこら辺の進め方についてちょっと聞きたいなと思いますけど。

○井川委員長

今、前田委員からありましたけども、皆さん、どう思いますか。今日、担当課に実際話も聞いて、じゃあ、それを基にある程度もうここで意見をまとめてしまうのか、あるいは再度、個人的なりグループで調査を行って、それについて再度またこの委員会を開いて、調査を意見の資料とするのか、これについてはどんなふうに思われますか。

○前田委員

もう一つ、なんで言わしてもらったかっていうと、これって足がかりなんですよね。今後のことも含めて、やっぱりせっかく出していただいとる意見を、担当課から話を聞いただけで、はい、そうですねってこっちでやっちゃっていいものかなというのがあるので、足がかりとして、今後もこういう話が出てきたときに、このやり方が普通になっちゃうのか、やっぱりそういうよそみたいに、委員会なら委員会、北栄町の場合は委員さんが例えば民経でもこれだけしかいませんけども、会津みたいに多ければ5人のチームに分けてするのが、ここはもう各常任委員会でやるって決めましたんで、そのチームは分けられんですけど、例えばこの民経の中でも、この一問に対しては3人でやりましょう、この一問に対しては3人でちょっと調査してごしないなみたいな、そういう形を取られてもいいですし、7人なので。そこら辺の。今回これが大事っていうのは、これが今後のやり方になっていくんだろうなと思うので、それでちょっとお聞きしたかったというか。

○井川委員長

ありがとうございます。皆さんはどのように思われますか。

私も今、前田委員の意見を聞きまして、本来ならば、もう少し早くこれに取り組むべきだったなというふうに思うわけでございますし、実際に意見を聞いただけで、じゃあ、即やろうかということにもなかなか難しい面もあると思います。本当にさっきも言われたような、例えば今この民経の委員は7人おりますけども、これ2つのグループに分けて、例えば1つがハウスの問題。それから、もう一つのグループは除雪の問題について再度ちょっと話し合ってもらって、また改めてそこの意見を出していただくというふうなやり方も一つのやり方ではないかなというふうに思いますけども、ちょっと皆さんどういうふうに思われますか。お願いします。

町田委員、どうですか。

○町田委員

そうですね。委員長言われたような感じでチームを組んで、もう少しやっぱり深掘りしてもいいんじゃないかなと思います。

○井川委員長

油本委員、どうですか。

○油本委員

締切りをいつまでにするのか、いつまでに答弁したいのか。実際にこれ行われたのが去年の7月17日なんですよ。早いほうがいいとは思いますが。実際、もう今、畑に出てる人はあまりいませんけど、これで暖かくなって畑に出る人が出ると、そしたら、ぱっと目について、そういう一旦消えてた炎がまた燃え上がってくると。早ければ早いほうがいいと思うんですけども、やはり慎重は期すべきだと私も思うんです、確かに。ですから、理想を言えば、なるべく早い段階で、じっくり練り上げて回答をするのがいいと思う。じっくり練り上げるためには、先ほど言われたように、例えば今回2つの案件ですので、半分に分けて、なるべく早くすると、委員会としての意見を出すなら出す。それがいいかなと思うんですけどね、取りあえず。

○井川委員長

分かりました。

津川委員、どうですか。

○津川委員

もう結論出しちゃわいなと思いますね。それから、ハウスについては、補助して造ったもんだけど、めぐの補助せなんちゅうやなばかな話はないけね。そりゃ、そこまではしない。ただ、農業振興も含めて、農業委員会のほうで説明があったように、遊休農地の再生事業というのがあるんでね、それを活用する中で、農業振興もしハウスも片づけ、新規就農も支援するみたいな3つのことで、県と国とで半分入って100%でしょう。補助金があるっちゃな事業あらせんぞいな。そんなを勧めるぐらいのことでええじゃないか。コナンのことについても、除雪についても、ボランティア等でも検討すべきっていうふうに、こんなに書いてごしとんなるけね、呼びかけながら見守るとかなんとかっちゃやなことええでないかと思う。何ぼかかるとかかからんとか、町がするとかせんとかちゅうよりも、委員会の結論、わしらに出せる思うんですよ。

○井川委員長

前田委員。

○前田委員

私は逆ですね。確かに津川委員が言われるところ、私も、例えばハウス、補助してもらって建てたものを、何にもせんのに、今まで作ってこられたですよ、また今後作らないのに補助で壊してごせ、それは都合がいいと思う。やっぱり新たに何かを作るから、新たにこういうことをしたいから補助してくれだったら分かります。ただ、それも簡単にここでこうだっていって返していいものなのかっていうことなんです。先ほどの除雪

も、確かにボランティアの制度があるけえボランティア、わざわざ意見でもボランティア登録も検討すべきって書いていただいとるですけど、なら、ボランティアの登録、こういう制度があるからボランティアに登録してくださいねで、単純でそれでここで結論づけて返しちゃうたらいいのか、先ほどもずっと話ししてましたけど、やっぱり議会ですから、委員会なので、例えば委員会がやっぱり町単費でも町の基準を設けてでもやるべきだという意見を町にぶつけるのか、そのためには、ちょっと裏取りって言ったらいけんですけど、このぐらいの規模でできるんだからとか、そういうもんを、なので、これはもうちょっと深掘りしましょう。これはもう結論出しちゃいましょうっていうのはええと思うんですけど、簡単に何でもかんでもぱっぱっとここで決めちゃうっていうのはちょっと。今後もっと深掘りしたり、もっと調査したらよかったねみたいなきに困っちゃうなっていうのがあって、なので、私も実は、一番上のハウスは、結論はもう、僕は調査をしたって多分結論は出とると思うんです。ただ、それをさっと出しちゃうっていいのか、やっぱりもう少し調査をして1週間後なら1週間後、2週間後なら2週間後にもう一回、民経集まってもらって出すのかっていう。先ほどと同じ話だけど、今後のやり方に関わってくるので、そこはちょっと決めてやったほうがいいなっていうことで。

○井川委員長

ありがとうございます。

秋山委員、どうぞ。

○秋山委員

この委員会で一応の方向性が仮に出たとしたら、次はあるんですか。例えば全協だとか全体の議会としての方向性、意見というのをもちょうろの自治会に報告するんですか。この民経の結論をもって案をつくってるのは、全体でこれでいいですかぐらいで六尾の自治会へ報告するんですか。

それが一つと、もう一つは、やっぱり7月に行われたものを、もう今となったら、普通の自治会の人、私の感覚では、ええっ、そんなことがあったかいな、発言した人は覚えとんなるですよ、発言した人は覚えとんなるけども、その会に出席した全体の人としては、ええっ、それがどうなったかなっていうのは、もうちょっと記憶が薄れつつあるんですよ。ちょっとここから先は個人的な意見ですけども、六尾の座談会、今年もしようと思ってるんですよ。前回の分はどうだったとか、それによって、これからどういうふうにもた持つていくんだということも含めて。ここで切れるんじゃないかと、よく言うようにPDCAじゃないけども、くるくる回しながらやっぱりいろんなことを考えていかないけんので、一応の結論というか、出してる場所は早く出したらいいと思えますけどね。両方ともある程度出てるんじゃない、この考え方を出すのは議会としての考え方出すわけでしょう。町としての考え方を出すわけではないんですよ、六尾の自治会のね。町はこういうふうと考えて、議会はこう判断したという報告の仕方になるんじゃないかなと私は思ってるんですけども、その辺の方向性や時限性のことも含めてちょっと疑問があるんですけどね。

○井川委員長

どうですかね、局長。

○手嶋局長

じゃあ、ちょっと事務局からです。

秋山委員が言われたイメージで私はいいかと思っています。ここである程度の案を固めていただいて、これを返す案とさせていただきたいというのを皆さんのほうで詰めていただいて、それを、その重点をどこに置いてやるのかとか継続するのかっていうのは、また委員会の中で検討されたら結構だと思いますが、ひとまずは、今、議会としてどうするのかっていう答えをお返ししなければならないので、委員会としてはこういうふう

に返したいと思うがっていうのを、どこかの全員協議会でしっかりとお話をさせていただいて、議会としてお返しすると。今、六尾は2回目も予定していらっしゃるということでございますので、その際にはこの振り返りも含めて話ができるようになっていう準備ができてれば、またさらに話が深まったり、次の展開があったりする可能性はあると思っておりますので、お返しする様式としてもお示ししたものをちょっと加工をして、誰が何を言ったのかっていうことをしっかりと分かる形でお返ししようかと思っています。そのことによって、あっ、俺こんなこと言っとったんだ、けど、今、状況変わったよねとか、こうだよねってというような話がまた深まっていくというものとも思っておりますので、これをどういうふうに返したいのかっていうのを委員会の中で決めていただいて、最終的にそれを民経としてはこういう考え方で返したいっていうのを、皆さんで最後協議をして返すっていうイメージ、秋山委員がおっしゃったイメージでいいかというふうに思っています。

○井川委員長

総務はどうですか。

○手嶋局長

ちなみに総務ですけれども、2枚目の紙の黄色塗りしてる総務の部分です。昨日、総務も、実際には総務は9月の定例会の会期中に大栄小学校の改築の図面を確認し、どういう改修をするのかとか写真だとか、いろんなものを見て確認をしておられます。その際にも担当課長からも説明を受けておまして、その内容についてお返しをする準備が今のところ整っている状態です。聞いたこの内容を、議会の対応方針として決めている内容を基に回答内容を協議をして、お返しをするという流れとなっておりますし、昨日の総務では、大栄小学校もう既に改築済んでいるので、写真と改築場所を分かるようにしてお返しすべきだということで話がまとまっているところです。

○井川委員長

阪本委員。

○阪本委員

元へ戻ってもいいですか。ふるさと館の移転とか道の駅ほうじょうが開業した後は、道の駅大栄の利用客が減少するのではないかという意見が入るとるんですよ。それは結局、北条の道の駅の対策を提案された当時ですね、北条のほうで結局、関係集落でアンケートを取ってるんですよ。

○井川委員長

阪本委員、今はちょっと六尾に返す意見を、六尾のほうに一応民経のほうでビニールハウスと、それから除雪の関係、これについてですので、この件についてです。どういうふうにさせてもらいましょう。ここで……。

前田委員。

○前田委員

何回もしゃべります。確かに秋山委員が言われるように、去年の7月に出とるもんですから、一日でも早く返して、返されるものは返したほうがいい。本当はもっと早いこと調査したりとか、ああいうのをすべきだったと、私も含めて議会運営員会で押し進めて遅くなっちゃったのが不十分で申し訳ないなと思っておりますけれども、今年も検討しておられるということもあられるということでしたら、取りあえず今後のこと、足がかりとは言いましたが、今後のことは今後また改選もありますし、また決めていただいたらええと思っておりますけど、プラスこれが返せるものはこの場で決めて返すという形に今回は。私はそれでええです。本当はいろいろ確認したほうがええかなとは思っておりますけれども、ちょっと時期も過ぎちゃって、もうそれで返せるものは返すと。ただ、突っぱねるような返し方の文章はやめていただいて、これについては今後も議会として

もやっぱり協議していきますとか、注視していきますとか何か、そういう感じの文面を出していけばいいと思います。あと、ハウスの件はちょっと僕も津川委員と同じ雰囲気を持っとりますんで、ちょっと強くていいかなと思いますけど、除雪の件はちょっと軟らかくして。取りあえず返すということで、今日決めて返すということで、今日、今回はいいと思います。

○井川委員長
阪本委員。

○阪本委員

ハウスの撤去の関係について、創生事業の中で、撤去費用、600万円を上限で、600万円でしたっけ。撤去費用は国が出すということがあったみたいです。それにのっとなって、農業委員会もそういった対応をしよるんだと思うんですよ。その代わり、条件があって、やっぱりまた果樹なら果樹、野菜なら野菜、それを新設するという条件で撤去費用が出るということのようです。だから、町で決めるとかじゃなしに、やっぱり国の制度としてやるということであれば、やっぱり国に沿って……（聴取不能）をやっていたら、そういう気持ちです。

○井川委員長

分かりました。じゃあ、ほかの委員さんもいいですかね。

農業用ビニールハウスにつきましては、今日もそれぞれ担当課長のほうから聞いたんですけども、いわゆる農業委員会のほうの事業から、また産業振興課のほうの事業もありましたので、一応そういうものを使って撤去する。ただ、撤去費用も助成ということは、これはありませんということをはっきりとうたっていくということで、それについてちょっと文章のほうを考えさせてもらいたいというふうに思います。

それから、コナン通りの除雪について、これについては、前田委員のほうから軟らかくというようなことがあったんですけども。

前田委員。

○前田委員

軟らかくって言葉がおかしかったですけども、軟らかくというよりも、それこそ、もうちょっと委員会として議会としてももう少し検討を進めていかないけんのかなと思いますので、今回ボランティア制度とかこういうものがあります、県の基準はこうです、歩道の基準はありません、ちょっとした説明を載せさせてもらって、今後も議会として、議会としてというのか、でも、議会として返すんで、議会としてやっぱり歩道の除雪の件はもう少し検討してまいりますとか、そういう感じで返されるのが一番いいのかなと思います。

○井川委員長

ありがとうございました。

今、前田委員からありましたが、そういうことで出させてもらってよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

津川委員。

○津川委員

今、委員長おっしゃったのは、委員長がある程度案をまとめていただいて、それについて再度確認するというので。

○井川委員長

はい、そうです。今の意見いただきましたんで、一応それとして案をつくらせもらって、また皆さんに見ていただくと。やっぱりこれはいけないとか、ここはこういうふうに直したらいいということがあれば、再度、皆様方の意見を聞きながらすると。委員会を再度開かせていただくということで、取りあえずは一応案をつくって皆さんのところ

に流させていただく、それについてまた再度検討願うと。何かの機会のときにということをお願いいたします。（「お願いします」と呼ぶ者あり）

じゃあ、一応ここで終わらせていただきます、議案は。

（3）閉会中の継続審査申し出について

○井川委員長

そうしますと、3番、閉会中の継続調査の申出について、これは申出をするでよろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）

調査範囲につきましては、民生経済常任委員会の所管する事項ということでさせていただきます。

（4）その他

○井川委員長

それから、次、4番、その他、その他について、皆さんのほうから何かありましたら。〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○井川委員長

じゃあ、ないです。

5 その他

○井川委員長

大きな5番もその他、すみません、事務局から何か。

○手嶋事務局長

事務局は御用意ありません。

6 閉会 （11：27）

○井川委員長

そういたしますと、ないようでございますので、以上で民生経済常任委員会終了させていただきます。今日どうも御苦労さまでございました。

※この会議録は要点筆記である。